

# 水ける生

聖霊による刷新のために

## 巻頭文「!」

全国コムニオ奉仕会 コーディネーター 小熊晴代

天の元后、喜びたまえ、アレルヤ!  
あなたに宿られた方は、アレルヤ!  
仰せのように復活された、アレルヤ!  
我らのために祈りたまえ、アレルヤ!

(典礼聖歌375番)

主イエス・キリストの復活おめでとうございませす! 私は翻訳する時には日本語の表記には元々なかつた感嘆符「!」を容易に使わない主義ですが、復活節の50日間、特に「アレルヤの祈り」で天の全ての天使と聖人と地上の兄弟姉妹の賛美に加わる時には、心!が満ち溢れます。一説では、14世紀頃、ラテン語で「やっただぞ、万歳」と喜びを表す間投詞*io*がこのように縦並びで表記されるようになったのだとか。

この喜びは、聖霊が結ばせてくださる実です。この生ける水が流れる所では、私の内でも私の半径5M以内でも、教皇フランシスコが復活の主日に言及されたように人類の希望を塞ぐ大きい石、重い石だらけの地球のどこでも、全てが生き返るのです。次頁でお伝えするように、この度カリスの顧問を退かれたラニエロ・カンタラメツサ枢機卿が書いてくださった祈りを共有しながら、喜びも新たに歩み続けましょう。

弁護者である聖霊、

教会にカリスマ刷新を起こされた方、全世界のカトリック・カリスマ刷新の上に再び力をもって降臨してください。

「恵みの潮流」全体が新たな勢いで駆り立てられますように。

あなたの聖なる油注ぎによって、私たち皆が人々に福音を告げ知らせ悩み苦しむ心を

いやすことができますように。

カリスマ刷新の中で汚れているものを清め、受けた痛手をいやし、冷たさを温め、乱れたものを正してください。

散らされた神の子らを一つにし、分断されたキリスト者たちを

一つにしてください。

私たちの勇気を新たにし、世にいる私たちの孤独を見だし、私たちの内に神との親密な交わりを

創造してください!

聖霊、来てください、十字架の上で

刺し貫かれたキリストの脇腹から!

来てください、復活された方の口から!来て、教会の顔を新たにしてください。アーメン。

### ☆ 目 次 ☆

巻頭文「!」(小熊晴代).....	1
カリスの顧問司祭の交代について.....	2
キリストと教会とに根を下ろし続ける (サヴィオ・マスカレナス).....	5
石川師によるズーム黙想会の報告.....	8
フレンツ神父の再来日にあたって.....	11
2024年度春期・夏期のお知らせ.....	12

### 発行

聖霊による刷新

全国委員会

編集委員

中村友太郎  
益田 薫

購読料(送料込み・年1600円)

購読申込み・振込み先

〒141-0021  
東京都品川区上大崎2丁目  
10-34-2-312

聖霊による刷新全国委員会

Email: ikerumizu.livingwater@gmail.com

郵便振替 00190-1-18878

口座名 聖霊による刷新全国委員会

# カリスの顧問司祭はカンタラメツサ枢機卿からスミス司教へ

全国コムニオ奉仕会コーディネーター 小熊晴代

今年の2月16日、カリス(正

式名称『カトリック・カリスマ刷新国際奉仕会』は次のニュースを発表しました。「昨年11月、ローマで、ラニエロ・カンタラメツサ枢機卿は、長年にわたってカトリック・カリスマ刷新と共にいることの喜びを改めて表明されました。そしてこう付け加えられました、『私はこの任務から退かなければなりません。しかし、皆さんのために祈ることは決して忘れません』と。

カンタラメツサ枢機卿の祈りはすでに美しい実りの一つを結びました。カリスを設立したいのち・信徒・家庭省は、教皇フランシスコの承認を得て、二〇二四年二月十二日付で、ピーター・レスリー・スミス司教をカリスの新しい顧問司祭に任命しました。

スミス司教は、米国オレゴン州

ポートランドの補佐司教です。

カリスが設立された二〇一九年六月から二〇二三年十月まで、いのち・信徒・家庭省の指名を受けて国際コムニオ奉仕会のメンバーでした。ピーター司教は所属する契約共同体メンバーと共に住んでいます。この任命をお引き受けくださったピーター司教に感謝いたします。また、カンタラメツサ枢機卿が私たちのそばに忠実にいてくださり、貴重な助言をくださり、祈ってくださいったことを、心から感謝いたします。」

カリスの公式サイトと米国カトリック司教団の発表から、新顧問司祭についてももう少し紹介します。ピーター・レスリー・スミス司教は、一九五八年、南アフリカ共和国に生まれ、一九八三年(米国司教団発表によると一九八六年)に米国に移

住。設立されたばかりの契約共

同体、People of Praise(賛美の民)の一員となり、二〇〇一年に司祭に叙階されました。神学と教会法の学位を取得しておられます。二〇一四年、教皇フランシスコの任命により司教に叙階されました。現在も、People of Praise 共同体の中でも生涯独自の誓約を立てている男性(二〇一四年当時で12人、うち司祭が4人)から成るBrotherhood(兄弟会)のメンバーです。

3月11日、カリスを代表して、スミス司教は、『ラニエロ神父、カトリック教会とカリスマ刷新に与えられた贈り物』と題する記事で、賛辞を述べられました。「ラニエロ・カンタラメツサ枢機卿がカリスの顧問司祭の任務から退かれました。昨年10月末にローマで開催された総会で、辞任する意向を表明しておられました。彼は長年にわたりカト

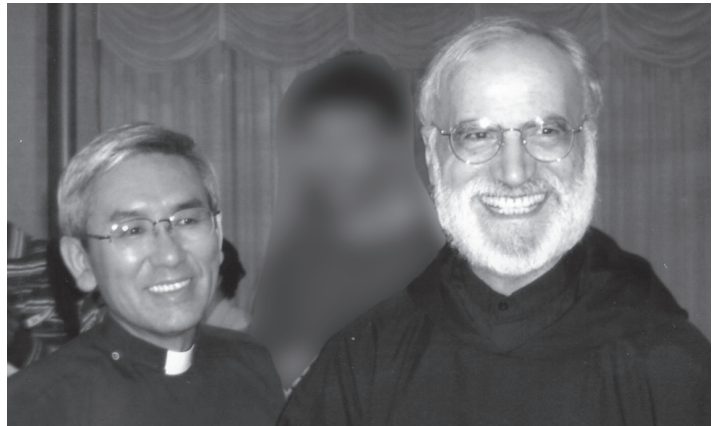
リック・カリスマ刷新において確固たる存在でした。私たちの多くが、彼の知恵、教え、説教とりわけ祈りによって、大いに祝福されてきました。

ラニエロ神父は、カトリック・カリスマ刷新に関わるようになって間もない一九八〇年、聖ヨハネ・パウロ二世教皇によって教皇庁の説教師に任命されました。これは通常5年間の任期でしたが、今日まで44年間続き、聖ヨハネ・パウロ二世、ベネディクト十六世、そして現在のフランシスコと、3人の教皇に仕えてられました。何十年の間、私たちの多くはラニエロ師が教皇庁内で行う待降節と四旬節の講話と聖金曜日に聖ペトロ大聖堂で執り行われるミサの説教を楽しみにしてきました。この説教師の責務に今後は注力し、残りの時間は善良で忠実な一修道士としてカプチン・フランシスコ会の修道院内で過ごされます。

ラニエロ神父は、主に4つの分野で信仰に偉大な貢献をして



カンタラメッサ枢機卿をねぎらう教皇フランシスコ  
(カリス公式サイト charis.international より)



2005年関西大会でのカンタラメッサ師 ・左は皇神父



カンタラメッサ枢機卿紋章



皮ター・レスリー・スミス司教

会の修道服を着用して聖ペトロ大聖堂に入り、枢機卿のビレッタ帽と指輪を受け取りました。もう一つ、簡素であろうとするフランシスコ会士として、ラニエロ神父は新たに任命される枢機卿に許されている選択肢、司教叙階を辞退されました。

皆さん、ぜひカンタラメッサ枢機卿の記事や著書をできるだけ多く読んでください。それらは多くの言語に翻訳されています。私はいつもラニエロ師の著書を余分に持っていて、より深い霊的な読書を求める人やキリストに自分の人生をより開こうとする人にプレゼントしています。さらに、彼の講話やプレゼンテーションのいくつかは、ソーシャルメディアに投稿されている動画で見ることができます。これらは視聴する価値があります。

ラニエロ師の待降節と四旬節の説教は、カリスの公式サイトに5カ国語で掲載されています。もう一つのサイト、[www.charislanessa.org](http://www.charislanessa.org)では、カンタラメッサ

くございました。(1) 教皇庁の説教者として。(2) 世界中のカトリック・カリスマ刷新の教師、指導者としての偉大な存在。(3) カトリック教会内とカリスマ刷新内でのキリスト者一致の原動力として。(4) 私たちの多くにとって霊的な知恵と導きのすばらしい源として。これらはどれも、祈り、謙遜、簡素な生き方という深い土台の

上に築かれています。私はずっとも幸運なことに、二〇一九年一月にシカゴでラニエロ神父が米国の司教団のために行った黙想会に参加することができました。教皇フランシスコが彼に依頼されたのです。参加した司教のほぼ全員が、困難な時期に大きな恵みと霊的なリフレッシュと知恵を与えてくれた時間だった、と同意しました。

それは教皇様とラニエロ神父と聖霊からのすばらしい贈り物でした。教皇フランシスコは、二〇二〇年十一月にラニエロ神父を枢機卿に任命することで、教会とカリスマ刷新とキリスト者一致への多大な貢献をたたえられました。フランシスコ会士として簡素な生き方に徹するラニエロ神父は、いつものフランシスコ

サ枢機卿の最新の講話が4ヶ国語でリストアップされています。

カンタラメッサ枢機卿の紋章は彼の生き方と信仰を反映しています。盾には聖霊が鮮明に描かれています。モットーは、

“Veni Creator Spiritus” (ヴェ

ニ・クレアトル・スピリトゥス、造り主の霊、来てください)です。上部には、簡素な十字架の前でアシジの聖フランシスコの聖痕を帯びた腕とキリストの腕が交差しています。

私たちが皆、カンタラメッサ枢機卿と一緒に、今もこれからも毎日、『造り主の霊、来てください』と祈ることができますように。」

カリスでは、キリストの死と復活の二千周年を祝う二〇三三年に向けて、『2033アジェンダ』というプログラムを昨年開始しました。詳細は次号でお伝えしますが、このプロモーション動画で、当時88歳のカンタラメッサ枢機卿は、「10年後、私はここにいないかもしれませんが、私の感謝と喜びと称賛が

キリストに届くよう皆さんの手に委ねます」といつもの満面の笑顔で私たちを招いておられます。キリストの死と復活によって新しい命に生きる人々で地の面が満たされますように、造り主の霊、来てください！

カンタラメッサ枢機卿様は、一九九三年に黙想指導者として、二〇〇五年に関西大会講師として、二度来日され、出会った人々の心に新たに、あるいは再び聖霊を燃え立たせてくださいました。神に賛美と感謝！現在日本語訳で入手できるカンタラメッサ枢機卿の著作は以下のとおりです。

『ミサと聖体 わたしたちの成聖』（片岡仁志、庄司薫共訳、マリオ・カンドゥッチ監訳、聖母の騎士社発行、一九九七年九月）。

『キリストにおける生活ローマの信徒への手紙の霊的メッセージ』（庄司薫訳、サンパウロ発行、二〇〇四年八月）。

『聖霊とエウカリスチア ラニ

エロ・カンタラメッサ講話』（澤田和夫訳、サンパウロ発行、二〇〇五年十二月）。二〇〇五年五月八日から3日間、尼崎で開催された『カトリック聖霊による刷新関西大会』でのカンタラメッサ神父の講話集。

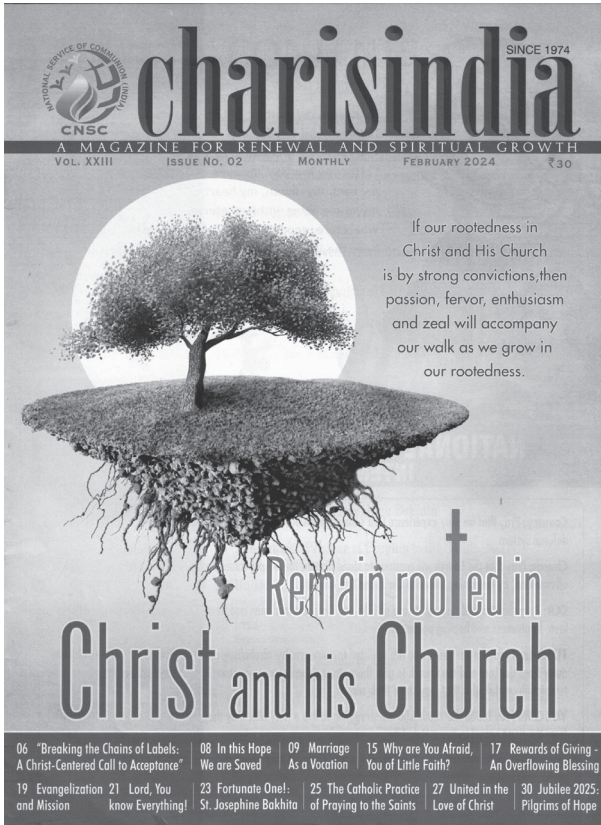
『司祭職 信徒にとって、聖職者にとって』（小西広志訳、サンパウロ発行、二〇一四年三月）。

『イエス・キリストを思い起こしてくださいー現代の信仰問題への応答として』小平正寿、パウロ・ヤノチンスキー、金子知香子、高木利彦訳、サンパウロ発行、二〇一七年三月）。

『エロースとアガペーー愛の二つの側面』（二〇一一年四旬節、教皇庁での説教集。堀江幸雄、高木利彦訳、日本カトリック聖霊による刷新全国委員会監修、日本カトリック聖霊による刷新全国委員会発行、二〇一三年八月）。問い合わせはカリスプレス (charispress3@gmail.com) まで。

去る1月28日に行われた全国コムニオ奉仕会総会で承認の上、能登半島地震被災者支援として、カリタスジャパンと名古屋教区に、それぞれ25万円を送金しました。急を要するため、今回は皆様からの献金を募らず、当会の口座残高から充当しました。被災地の皆様の上に、主の慈しみと平和が日々豊かにありますように、心をあわせてお祈りさせていただきます。

(コーディネーター 小熊晴代)



# キリストとその教会とに根を下ろし続けること

サヴィオ・マスカレナス

◆インドの聖霊刷新機関誌「カリスインディア」本年二月号は、表題のような特集を企画し、若手の副編集長が明快な論説を掲げています。わが国の聖霊による刷新の関係者にも良き示唆を与えてくれる記事と思われまし

たので、ここに抄訳紹介させていただきます。(編集子)

キリストとその教会とに根を下ろし続けるようにとの呼びかけは、私たちの聖性と弟子たることにおける成長にとってとて

も大切です。しばしば私たちは物事をたんに慣行から、儀式や習慣になっただまに行ないがちです。そこで私たちは、自らの生活の中での聖霊の現存と働きに、たえず意識し気づく必要があります。キリストの賜物として、聖霊は教会を建て上げ、活かし、聖化しています(『カトリック教会のカテキズム』747参照)。

それゆえに、私たちには、私たちが建て上げ、活かし、聖化する聖霊の力に信頼し、このような**確信**のうちに熱心に成長するという切迫した必要が存在するのです。

キリストとその教会への私たちの根付きが堅固な確信にもとづいている場合には、私たちがこのような根付きにおいて成長するにつれて、**情熱・熱情・熱意・熱心さ・熱中**が私たちの歩



みに伴うでしょう。その場合、私たちは、神の子どもであり、カトリック信者であり、カトリック教会のメンバーであること、また、霊に満たされ導かれていくカリスマ体験者であることについて、**情熱的で熱情的で熱心**であると期待されるでしょう。

カトリック教会と私たちの祈りのグループは、果たして情熱的で熱情的で熱心な人たちで満たされているでしょうか。私たちはしっかりと根を下ろしているか、それとも私たちは、「ボーンアゲイン(生まれ変わり)体験者の赤子」や「揺りかごに乗った(いまだ揺籃期の)カトリック・カリスマ派」でしょうか。私たちはもはや、「揺籃期の」カトリック・カリスマ派ではなく、「**回心し、良心的な、決意したカトリック・カリスマ派**」であるように呼びかけられ

ているのです。

揺籃期のカトリック・カリス  
マ派は、乳製品で満足し、感情  
的なレベルに留まっています。が、  
決意したカリスマ派は、聖性と  
根付きにおける真実の成長を促  
進する霊的な食べ物を求めます。

「乳を飲んでゐる者はだれでも、  
幼子ですから、義の言葉を理解  
できません。固い食物は、善悪

を見分ける感覚を経験によって  
訓練された、一人前の大人のた  
めのものです。だから、私たち  
は、キリストの教えの初歩を離  
れて、成熟を目指して進みまし  
よう。」（ヘブライ人への手紙5  
・13-14、6・1）。

聖パウロは、エフェソの信徒  
たちへの手紙の中で、私たちに、  
成熟した人間になり、イエス・  
キリストの満ちあふれる豊かさ  
にまで成長するように励まして  
います（エフェソ4・12-13参  
照）。キリストのような成熟に  
まで成長するためには、私たち  
は「キリストに根を下ろし、そ  
の教会に根を下ろす」必要があ  
ります。

## I. キリストに根を下ろすとは、

● 黙示録1：8 「神である主、

今おられ、かつておられ、やが  
て来られる方、全能者がこう言  
われる。『わたしはアルファで  
あり、オメガである』と。」

● ヨハネ6・68 「主よ、わたし  
たちはだれのところに行きまし  
ようか。あなたは永遠の命の言  
葉を持っておられます。」

● コロサイ2・6-7 「あなた  
がたは、主キリスト・イエスを  
受け入れたのですから、キリス  
トに結ばれて歩みなさい。キリ  
ストに根を下ろして造り上げら  
れ、教えられたとおりの信仰を  
しっかりと守りなさい。」

● マタイ13・1-9 は、実を結  
ぶために根を下ろす必要を強調  
しています。

● 根のある証しはその実にあります。  
● そこで実りは一つの季節  
だけでなく、毎年繰り返される  
のです。

● そこで、私たちは主のうちに  
深く根を下ろし、信仰のうちに  
しっかりと留まり、主との交わ  
りによって維持されることがど

んなに大切か分かります。

● ルカ13・6-9 「実のならな  
いいちじくの木のたとえ」—こ  
のたとえは、私たちに、自分た

ちの生活と私たちの主との根付  
きを吟味するように挑戦してい  
ます。イエスが実を探しに來ら  
れるときに、私たちの生活のう

ちに何を見つけるかと自問すべ  
きなのです。イエスのうちに留  
まることによって健全な成長を  
遂げているか、それとも、彼の

うちに根を下ろしていないため  
に、私の霊的生命はしおれてい  
るのでしょうか。私は葉の多い  
外観を呈しており、見た目には  
良くても、実を結ばないぎざな  
群葉を生み出しているのではな  
いでしょうか。

## II. 教会に根を下ろすとは、

● 教会は一つの秘跡—救いの普  
遍的な秘跡です。

● 教会は、七つの秘跡が私たち  
を聖化するのと同様に、私たち  
を聖化します。もろもろの秘跡

の目的は、私たちに救いを確信  
させることにあります。  
● 教会はキリストのからだです。

私たちは、それによってそのか  
らだの部分となるように、教会  
のうちに根を下ろす必要があります。

● 聖キュブリアヌス（二五八年  
に殉教したカルタゴの司教）は、  
その最も重要な著作「教会一致  
論」の中で、次のように述べま  
した。教会以外のところで集ま  
る者は、キリストの教会をまき  
散らす者である。また、信仰者  
にとつては一つの教会以外に家  
はないと。

● 最初の教皇としてのペトロに  
基づく、使徒的で普遍的なキリ  
ストの教会であるカトリック教  
会に根を下ろし続けること。聖  
リヌスが第二代、聖アナクレト  
ウスが第三代、教皇ヨハネ・パ  
ウロ二世が二六四代、教皇ベネ  
ディクト十六世が二六五代、教  
皇フランシスコが二六六代です。  
私たちは歴史的に、最初の教皇  
（ペトロ）から二六六代（フラ  
ンシスコ）まですべての名前を  
掲げています。  
● 私たちは、使徒たちが、聖伝  
と聖書の中に含まれる「ゆだね

られた信仰の遺産」Depositum  
[Ecc.]を託したこの教会から知  
恵と真理を引き出します(『カ  
トリック教会のカテキズム』8  
4)。

●ユダの手紙3節には「あなた  
がたに手紙を書いたのは、聖な  
る者たちに一度伝えられた信仰  
のために戦うことを、勧めなけ  
ればならないと思ったからです  
」とあります。

●「ゆだねられた信仰の遺産を  
守ること、これこそ主がご自分

の教会に与えられ、また教会が  
いつの時代にも果たしている使  
命です。」この言葉をもって、  
教皇ヨハネ・パウロ二世は、『

カトリック教会のカテキズム』  
の序文となる「使徒憲章・ゆだ  
ねられた信仰の遺産」を始めら  
れました。そしてそれに続けて、  
この新しいカテキズムの目的は、  
何よりもまず、信仰の遺産を守  
ることであると述べています。

●ゆだねられた信仰の遺産とは  
何か。

## 石川直樹神父様による

# ZOOM黙想会(二月十二日)が開かれました。

本誌前号の記事にありました  
ように、日本各地での黙想会の

あとエルサルバドルに戻られた  
神父様は、今度はオンラインの  
かたちでの黙想会を、第一朗読  
(ヤコブ1・1-11)と福音朗  
読(マルコ8・11-13)に基づ  
き、「いささかも疑わず信仰を  
持つて願いなさい」をテーマに  
開催されました。ここではそれ  
に参加されたお一人の方の記録

によって、その一端を紹介させ  
ていただきます。

なお今回は、講話形式よりも、  
たびたびの賛美や共同祈願・聖  
体顯示などの時間を取り込みな  
がら、終始参加者に語りかける  
かたちで展開されました。以下  
は、その流動的なスピーチを書  
き留めた覚書の断片であること  
をお断りしておきます。

◆日本とここエルサルバドルで

信仰の遺産とは、神の啓示に  
ほかなりません。ご自身につい  
ての神の啓示は、三つの源泉を  
通じて私たちに到来します。

### 1. 聖なる経典

―旧約聖書と新約聖書

### 2. 聖伝

―使徒たちの教えによって口頭  
で伝えられ、教父たちの著作に  
おいて保存された伝承

### 3. 教導権

―教会の生ける教導権は、ペト  
ロの後継者であり使徒たちの頭

である教皇により、使徒たちの  
後継者である司教たちとの一致  
のうちに発揮されます。

「あなたがたは、主キリスト・  
イエスを受け入れたのですから、  
キリストに結ばれて歩きなさい。  
キリストに根を下ろして造り上  
げられ、教えられたとおりの信  
仰をしっかりと守って、歩き続け  
なさい。」(コロサイ2・6-  
7)。

キリストとその教会に根を下  
ろして、歩み続けましょう。

は私たちの中にいます。今いる  
だけでなく、死を通して私たち  
はイエス様と一緒になれます。

三位一体の中で一緒に暮らすの  
です。それが秘跡の大きな目標  
です。「わたしはあなたと共に  
今一致しています。わたしの中  
につながりなさい。わたしはぶ  
どうの木、あなたがたはその枝  
だから、わたしなしで、あなた  
は生きてはいけません。」カトリ  
ック者に祈りがなく信仰がなか  
つたら、生きていくこともない。  
ご聖体がなかつたら、本当に人

生はつまらない、悲しいもの。希望も喜びも平和もない。けれどイエス様が、この私の中に来てくださる。毎日、日曜日ごとに、み言葉を通し、秘跡を通し、祈りを通し、ロザリオを通して私たちと一緒にしてください。イエス様の言葉は本当ですね。「わたしはあなたがたと一緒にいる。永遠に至るまで。わたしは永遠のインマヌエルである」と言っておられます。

◆今日のテーマは、ヤコブの手紙にあるとおり、「いささかも疑わず、信仰をもって願いなさい」です。まぎれもない本当の信仰は、山や岩のように動くことのないマリア様の信仰です。それをイエス様は私たちに求めておられます。風雨の中でも揺れ動かない本当の信仰ですね。信仰を強めるには、試練が必要です。イエス様の生涯、マリア様の生涯を見てください。たくさんの課題や困難があり、難しいことだらけの人生ですね。イエス様もそれらを通して信仰を深め成長されました。だから信

仰は、神様が送ってくださる試練や、聖霊からの誘惑を通してこそ、わたしたちの信仰も、神様から認められるのです。このような信仰について今日は話したいと思います。

◆まずは聖書―信仰の本・神様のことば―これが心から、頭から体から、すべてを通して入ってくれば、つまりイエス様との一致があれば、あなたの信仰はますます深くなってきます。神様のみ言葉は、聖霊で書かれたことば、神様の命ですね。人間の命でなく神様の命が心の中に豊かに入ると、神様を吸い取る力、聖霊様の力をもらうわけで、それが私たちの信仰を強めてくれるし、私たちの愛も膨らみ、喜んで生活できるわけです。普通の人では難しく不可能なことです。ヤコブは言っています。「いろいろな試練に出会うとき、この上ない喜びだと思いなさい。」「病氣・挫折・失敗・疲れなど、様々な試練に出会うとき、イエス様から来る宝物として「この上ない喜びと思いなさい」と言

うのです。これを喜ぶことが出たら聖人ですね。しかし、聖人たちも、生まれた時は、いろいろな歪みを心に持った弱い人間ですが、試練を通して神様の言葉と受肉し、神様の中に、信仰の中に生きていますので、私たちはそれに助けられるわけですね。試練が来たときには、試練の方に目を向けないようにしましょう。

◆「信仰をもって願いなさい」における「願い」とは「祈り」です。これはあなたの信仰生活の全てを支える土台です。それがあってこそ、聖霊様がやって来られる。信仰には、天の門を開けて聖霊を引っぱってくるそのような力があるのです。だから、この祈りの力は、神様ご自身の力です。お祈りするあなたには、神様ができることが可能です。本当に私の、あなたの信仰を、私の祈りの生活をもう一度確かめるべきだと思います。毎日のお祈りを通して、あなたの信仰はますます深まるのです。祈りが一日でもない時、あなた

の信仰は弱くなってしまう。信仰を嫌悪し、あなたの祈りの生活が大嫌いな悪魔に対抗して、祈りに対して、霊的に内的に強くなってください。神様の子どもとして毎日祈り続けるとき、あなたの信仰は、聖霊の力によって強められるのです。

◆もう一つ大切なのは、イエス様の御血ですね。それは色のついた液体ではなく、イエス様自身の生涯のことを言います。どれほどカルワリオで流された血が、あなたの罪の赦しのため、あなたへの愛のために流されたことか。それによってあなたの罪は、もう神様の命の本には、あなたの罪は書かれていません。あなたが深く心から、神様に赦しを求めるとき、イエス様はその尊い御血によって過去の罪・現在の罪を消してくださいましたのです。それがはつきりできるのは、赦しの秘跡であり、ご聖体の力ですね。

### 【共同祈願と聖体顯示の中で】

いまイエス様に感謝と賛美を捧げます。心の奥からあなたに

感謝を捧げますが、十分な感謝の言葉を見付けることはできません。私たちの心は、あなたの愛でいっぱいです。あなたの現存でいっぱいになっています。

イエス様、聖霊様、言葉を送ってください。あなたに賛美の言葉、感謝の言葉、肉の言葉でなくて聖なる言葉、聖霊様、助けてください。私たちを。私の霊からあなたの霊に叫びたいのです。感謝します。

神様に賛美と感謝を捧げています。私たちは、あなたの前にいます。いつか私たちは死の瞬間に、私たちはこの世にいません。身体はここにあっても、私の霊、心は体の中いません。あなたの前にいます。正面から、あなたの聖なる言葉を聞くためです。永遠の命を私たちに与えて下さい。永遠の命をもらっています。感謝の祭儀を行う度に、私たちは永遠の命にあずかっています。

賛美と感謝を捧げます。皆さん、一緒に祈りましょう。聖霊様、来て下さい。天のお父様、

聖霊を日本の信者様たちに送って下さい。あなたの民です。教会の民です。イエス様を通して贖って下さった民です。この黙想会を通して、聖霊を送ってください。聖霊様、来て油を注いでください。イエス様の御名によって、聖霊様、来て下さい。

◆十字架によって聖なる全てを、私たちのために投げ打ってください。私たちが感謝します。そして聖霊の力によって復活して、今も生きておられ、ご聖体の中に、み言葉の中に、一人一人の中に、いつも臨在しておられる三位一体の神様に感謝します。今は、イエス様の時間です。皆さん、神様の神聖な時間です。あなたとイエス様の間のこの霊的な関係においては、神様と日本とエルサレムに距離はありません。今、ここにおられるイエス様は、あなたがいる場所に、あなたの中におられます。あなたは聖霊の館です。天の国の中に、あなたはいます。

今、その信仰をあらためて下さい。聖霊様は言っています。

「わたしは全ての場所で生きています。神であるわたしは、あなたのことをよく知っている。あなたの過去も、生い立ちも、青年時代も。全てをよく知っている。わたしはあなたと一緒に歩き、昼も夜もずっとあなたの中にいる。あなたは分からないかもしれないが、あなたの中にいます。悪の誘惑から何度あなたを助けたことか。あなたが悪に誘惑されている時、わたしがあなたを救ったのです。」

◆アバ父よ、聖霊様を送ってください。聖霊よ、来たりたまえ。しっかりと油を塗ってください。あなたは聖霊に油を注がれた人です。もう一人のキリストです。あなたは神様のものです。あなたの命も死もイエス様のものです。全てを与えてください。

今、私がここでイエス様に來ていただくことを体験しているように、皆さんも日本のいろいろな場所で、今、皆さんもそれぞれ体験されたと思います。これがイエス様の聖霊の力です。聖霊の力で私は生きています。

聖霊の力が私たちの中にあります。祈りを通して祈りによって扉が開きます。天の扉です。天の全てのものが私たちのところに入ってくる。それが祈りの偉大な力です。祈りを深く愛し、祈りを続ける者には何も不可能なことはない。なぜならイエス様が、全知全能の神が中に生きているから。グラーシアス・感謝します、イエス様。手をあげてください。あなたに挨拶しておられるイエス様に向かい、信仰を持って手をあげてください。

◆イエス様、今、手を差し伸べてください。イエス様が今、手を差し伸べておられます。その手は日本にもつながっています。どんなところにもイエス様は力強い。神の力は権威であり権力です。イエス様、あなたは誰が今、どのような状態にあるか、よくご存知です。私には分かりませんが、あなたは知っています。私たちはあなたの愛される子ども、贖なわれた民です。◆イエス様もう一度手を伸ばしてください。一人一人の信者た

ちの上に手を置いてください。たくさんの病気があるかも知れませんが。家族の問題、夫婦間の問題、教会の問題、いろんな問題があります。日本にあってもイエス様の霊が働いています。悪霊が働き、忍び寄っています。教会の中でも。イエス様、あなたの御名によって悪に攻撃します。全ての悪霊、あなたの心の中に今襲いかかっている悪霊、影響を与えている霊、家族の霊、子どもたちを襲っている霊、イエス様によって、お前に言う。全ての病氣、頭の病氣、心の病氣、いろいろな病氣が日本にもあります。イエス様、あなたの御名によって私は、全ての日本の悪霊に対して権威をもっています。お前はイエス様の御名に従わなければならぬ。イエス様の御名によって私は言う。五を数えるうちにお前は出て行け。五を数えるうちにお前は、家族の霊から、イエス様の御名によってお前は出て行く。お前は地獄に入れ。よく聞け、サタン。自殺の霊よ。墮胎の霊よ。傲慢

の霊よ。悪霊よ、私が五を数えるうちに出て行かなければならない。私は、お前に対する権威を持つてゐるのだ。一、二、三、四、五。体にひそんでいる悪霊よ。お前に言う、病氣の霊よ、出て行け。全ての悪霊、先祖から来る悪霊よ、イエス様のみ名によってお前に命ずる。体から出ていけ。頭から出ていけ。尊いイエス様の力によってお前に命ずる。決して基に戻るな。聖霊様が私の館の中におられ、神様が働いておられるのだ。

◆手を挙げて感謝してください、イエス様に。賛美と感謝を捧げます。聖母マリア様、聖ベルナデッタ、病氣のために取り次いでください。聖霊の火を投じてください。聖霊様の愛の火を、燃えている火を。あなたの油の注ぎの力によって、私たちの罪を打ち破ってください。主よ。賛美の歌声の中にあつて、感謝します。心の中に聖霊様が働いているので、ずっと祈りをしていきます。あなたのために。イエス様、日本を覆ってください。

◆皆さんのために、引き続きお祈りします。祈りは絶えませんが、神様の霊が働いている時は、祈りに終わりがありません。いつも始まり、終わりのない祈りです。聖霊様の働いている祈りです。ああ、日本を救ってください。日本は素晴らしい民です。どうか門を開けてください。悪霊が閉じている門を打ち破ってください。聖霊様、素晴らしい民の心の中に入ってください。素晴らしい聖人もいます。福者たちもいます。たくさんの殉教者たちも今、祈ってください。日本の教会は屈することがありません。イエス様が祈ってください。さつています。聖霊様が、新しい息吹を今、吹き込んでくださっています。全ての教会に新しいリバイバル、再生が必要です。霊性から来る再生です。生まれ変わり、よみがえるのです。私たちも大きな責任を持っています。神様の望みが成就しますように。私たちの力を通して、祈る力を通して、イエス様が發揮してください。

# 再来日されるフレンツ神父様と

## その黙想会についてのご案内

本誌二〇二二年冬季一三九号に掲載された、ゲスマン和歌子さんによる記事「フレンツ神父と日本」をご記憶の方がどれだけおられるでしょうか。ドイツ在住の和歌子さんが近隣の施設で開かれた黙想会での講話に感動し、日本への招待を申し出たことから、二〇一九年にはフレンツ・ザビエルの霊名をお

持ちの神父様による黙想会が、札幌・秋田・東京で実現しました。そして翌年の初夏にも来日が予定されていましたが、これはコロナ禍のために叶いませんでした。

けれども、そこで奮起されたフレンツ神父様は、ユーチューブチャンネルを開設し、毎日の考察とごミサ、ご聖体拝領を配

信するようになりました。とくに

日本の方々のために始めたとも言えるこの企画は、日本でも試聴できる時間帯を選び、毎日ご聖体で祝福する際に、「一番最初に日本に祝福を送っている」という姿勢に、まだお会いしたことのないうちにその交わりに参加された方も多々あったようです。

今回の来日にあたって予定された、五月下旬に軽井沢で開かれる黙想会は、すでに参加者のキャンセル待ちの状態ですが、次ページのお知らせにも掲載されている東京のカトリック初台教会での一日黙想会はどなたにも開かれておりますことをお知らせいたします。

◆ルクセンブルク出身のフレンツ・ミュラー (Francis Muller) 神父様の略歴は、以下のとおりです。

一九六〇年 ルクセンブルクの  
デイキルヒで七人兄弟の六番  
目として生まれる

一九七六年 この頃からカリス  
マ刷新に参加

一九八一〜八七年 トリア、パ  
リにて神学を学ぶ。

一九八七年一月 助祭叙階、同  
年七月司祭叙階

二〇〇三〜一七年 複数の教区  
で司牧

二〇一一年〜現在まで ルクセ  
ンブルク大名家のチャプレ  
ンを務める

二〇一三年 ルクセンブルクの  
「良き羊飼い」教区責任者とな  
る

二〇二二年九月 健康上の理由  
により教区司祭を退く。以来、  
定期的に各地（主にドイツ）  
で黙想会を行い、現在に至る。

上掲の写真は、この三月に南ド  
イツ・ジクマリンゲンのポイロ  
ンで行われた黙想会の折に撮影  
されたお元気なお姿です。



## 【2024年度 春期と夏期のお知らせ】

### (1) フレンツ神父による一日黙想会

カトリック初台教会・一階アルフォンソホールにて

2024年6月1日（初土）10時～17時

テーマ：人はパンだけで生きるのではない。神の口から出る

一つ一つの言葉で生きる。（マタイ4・4、申命記8・3）

受付&賛美：9時30分から 参加費：2000円

申し込み：必要ありません。

昼食：近くにお店や自動販売機がありません。

昼食・飲み物等各自で持参してください。

祝別：ロザリオ、おメダイ、御絵などの聖品、薬、水、

オイル、塩など、各自必要なものをお持ちください。

その他：歌集『神の愛』をお持ちの方はご持参ください。

### (2) 聖霊降臨前日の日本全国リレー賛美の集い

2024年5月18日（土）13:00～16:30

北海道・名古屋・鹿児島を拠点にオンラインで開催されま

すが、詳細は公式サイト「カトリック聖霊による刷新」

(<https://ccrjapan.org>) でお知らせいたします。

### (3) 聖霊による刷新祈りの集いについてのリレー研修会

8月23日（金）、24日（土）に東京・秋葉原の貸しホール

を会場に開催の予定です。

### (4) カリス主催の執り成し成長黙想会「高間2024」

中米グアテマラで8月1日～4日に開催されます。

参加は無理でも、支援の祈りをいたしましょう。